

# ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM

VOL.4 NO.3 1979. 6.8  
平塚市博物館 TNO38



## 7月の花 ハコネウツギ

6月の山道で、1つの枝に白と赤の両方の花をついている木に出会ったら、それがハコネウツギです。2色の花とはちょっと不思議な気がしますが、木の下に散っているのは赤い花ばかり、つまりこの木は白く咲き出した花が、日がたつにつれて赤く変わっていくのです。同じ頃咲くスイカズラにも似た性質があり、白から黄色に変わることの花は金銀花という別名を持っています。

## ----- 6月の行事 -----

### ● 星を見る会

「太陽黒点を調べよう」

日時 6月3日(日曜日)

午前11時30分~13時

### ● 体験学習シリーズNo.32

土器をつくろう (縄文土器の製作)

日時 6月7(木)・13(水)・14

(木)日

午前10時~16時

### ● 自然観察会

植物のスケッチ(吉沢)

日時 6月10日(日曜日)

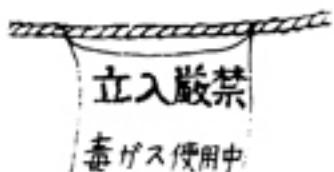
### ● 全館くん蒸について

6月22日(金)~6月30日(土)

博物館では、虫がふ化して活動しはじめる時期をねらい毎年1回全館内の殺虫処理を行うため、次のとおり特別休館いたします。ご協力を願いいたします。



### ● 特別休館のお知らせ



6/22 23 24 25 26 27 28 29 30

特 別 休 館 月末休館



## ———7月の行事————

### ● 体験学習シリーズNo.33

草木で染めよう 一木の皮を使ってー

日時 7月8日(日) 午前10時~15時

材料費 1人200円

申しこみ 6月末日までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。

クヌギ、サクラなどの樹皮を使って、絹の小布を染めてみます。

### ● 星を見る会

月を見よう

日時 7月7日(土) 午後6時~8時

申しこみ 6月28日までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。

### ● 6月のプラネタリウム話題

ーさそり座の徹底的研究ー

夏、南の空に大きく横たわるさそり座は、美しいS字形に並んでおり、古代からその姿は注目されています。今回はさそり座にまつわる伝説、物語をたずねたり、星座の中に見られる美しい二重星や天体を調べます。

### ● プラネタリウム案内

観覧料 1人 100円

所要時間 1回 45分

観覧券の発売開始時刻と投影開始時刻

投影日		発売開始時刻	投影開始時刻
土曜日	1回目	12:00	13:40
	2回目	14:00	15:00
日曜日	1回目	9:00	10:30
	2回目	12:00	13:30
水・木	団体専用		

定員 128人

観覧券は、1人、1回、1枚しか発売しませんのでご注意ください。

乳幼児はご遠慮ください。

### ● 寄贈品コーナー展示替えのお知らせ

絵画作品の所蔵品は、ほとんどが寄贈されたものですが、400点近い作品のうち、354点が二見利節先生の遺作です。昭和52年10月に寄贈一周年を期して特別展「二見利節展」を開催いたしました。その折ご紹介できたのは70点余りで、まだ未公開の作品が300点近くもあり、今回から寄贈品コーナーで順次公開してゆくことにいたします。

6月1日から7月30日まで 油彩画 8点

8月1日から9月30日まで パステル画 8点

### ● 行事参加案内

博物館では、「ひらつか広報」「はくぶつかんさらには「新聞」紙上等々で、博物館が開催する行事の参加案内をお知らせしております。応募の方法は多くの場合、往復ハガキによる申し込み方法がとられています。

この場合、応募のし方によってご期待にそえぬ場合も生じることが最近多くなりましたので次の点にご注意ください。

- 1 応募は原則として往復ハガキ1枚に1名です。
- 2 1枚の応募ハガキで幾くつの行事に参加依頼があります。1行事に1枚の応募ハガキをお使いください。
- 3 参加申し込みハガキには、氏名・住所・年令・電話をかならず明記してください。
- 4 応募期日を限守してください。

等々です。もちろん、上記要件にみたないものについても、できるかぎりご期待にそえるよう対処しております。

お問い合わせは下記へ

平塚市博物館 平塚市浅間町12-41

TEL 33-5111(代表)

# 露頭はかるる - 地層見学ガイド -

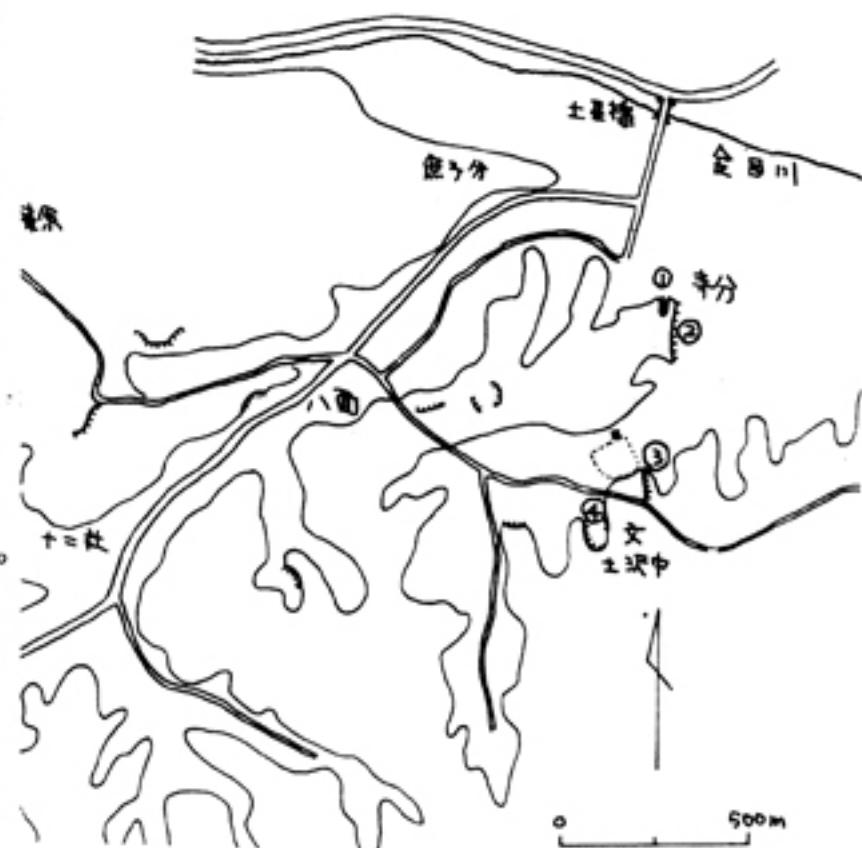
大磯丘陵には、いわゆる関東ローム層と呼ばれる赤土層や軽石層が厚くつもっています。これらは、箱根火山や富士火山の噴火によってもたらされた火山灰や軽石が堆積したもので、ここでは、このローム層を調べて、丘陵東部の土地の生いたちをさぐってみましょう。

平塚駅より秦野行のバスに乗り、土屋橋で下車します。橋を渡って真っすぐに500mほど行き、台地のへりを左に曲がると寺分の①の崖です。ここでは、図1のように、下からローム層、砂層、軽石をはさむ泥炭層、軽石層と重なっています。

最下部のローム層は早田ローム層と呼ばれ、約19～25万年前に箱根火山からもたらされた火山灰が陸上につもったものです。この早田ローム層の上には砂層が重なりますが、砂層の下底には、海岸にすむ生物の巣穴のあとが数多くみられます。これは、約14万年前ここに海岸線があったことを示すものです。つまり、陸上に堆積した早田ローム層を削って海が侵入し、砂層を堆積させたことがわかります。この砂層の上位には、木の化石を多量に含んだ泥炭層が重なっています。砂層と泥炭層をあわせて、この時期の水成層を吉沢層と呼びます。

ところで、砂層や泥炭層の中には、軽石層が何枚もはさまれています。したがって、この軽石層は水中に堆積したものです。また、泥炭層の上位にも軽石層がつみ重なっていますが、これは陸上に堆積したものです。これらの軽石層は吉沢ローム層と呼ばれ、平塚市を中心とした大磯丘陵東部に広く分布しています。そしてこの軽石層には、それぞれに非常に特徴があるので、一枚一枚識別され、記号がつけられています。(図1)。この軽石層と水成層との関係を調べると、ここでの土地の変遷がよくわかります。すなわち砂層中にはZ、Z'軽石がはさまれており、Y軽石からV軽石までは泥炭層中にははさまれています。(図1)。したがって、Z'軽石のころまで砂層が浅い海底に堆積し、Y軽石の時期には、この地域の内湾の入口が砂洲で閉じられたらしく、V軽石の時期まで沼沢地になっていたことが考えられます。この付近が再び陸上に姿をあらわしたのはU軽石の時期からです。

①の崖の東となりに②の崖があります。ここでは①の崖と全く同様な地層から成ります。ここからさらに台地のへりを南西に進むと東海大グラウンドに出ます。グラウンド南の坂道にある③の崖では①でみた吉沢ローム層のW軽石より上位のローム層が観察されます。吉沢ローム層中には軽石層の直下に灰白色の細粒火山灰を伴ったもの(火山灰のはかまといふ)が4枚認められ、特徴的です。それらは上位よりP、U、V、W軽石と呼ばれています。ここで一枚一枚の軽石層の特徴(厚さ、色、粒径、岩灰の量比)をみておきましょう。  
③の坂を登って右へ歩くと、土沢中学校下の④の崖があります。ここでは図2のように下位より海成砂層(吉沢層)、吉沢ローム下部層、吉沢ローム中部層と重なっています。最下位の砂層直上にはZ軽石がのっており、①と比べるとこちらの方が早く陸になったことがわかります。このように、吉沢層の分布を調べ、水成層の上にどの軽石層から陸上に堆積したかを調べると、図3のような古地理図を描くことができます。図から、当時(13～14万年前)平塚市一帯は浅い海におおわれていたことがよくわかります。このような時期を海進期といいます。



また、④では吉沢ローム下部層を削って吉沢ローム層中部層が堆積しています。すなわち、P軽石が下位のローム層を切って斜面にうすくまいおり、A軽石は谷を埋めるようにして厚く堆積しています。これは過去の谷のあとをあらわしています。この下部層と中部層との関係から、次のような出来事が推定されます。吉沢層堆積後、水系が発達し、谷を作り始め拡大していきます。谷の斜面では浸食が栄んに行なわれるため、軽石が降下してもつもることはできません。P軽石降下期あたりから谷の斜面は安定期となって、それ以上拡大しなくなり、P軽石が斜面にうすく堆積することができました。さらにその上位には土壌層であ

下末吉澤の古地理(10~14万年前)



図3 10~14万年前の古地理

るクラック帯が形成されました。その後、A軽石の降下により、谷は次第に埋めたてられていったことがわかります。

このように軽石層を一枚一枚識別することによって、その土地の生いたちを明確にすることができます。

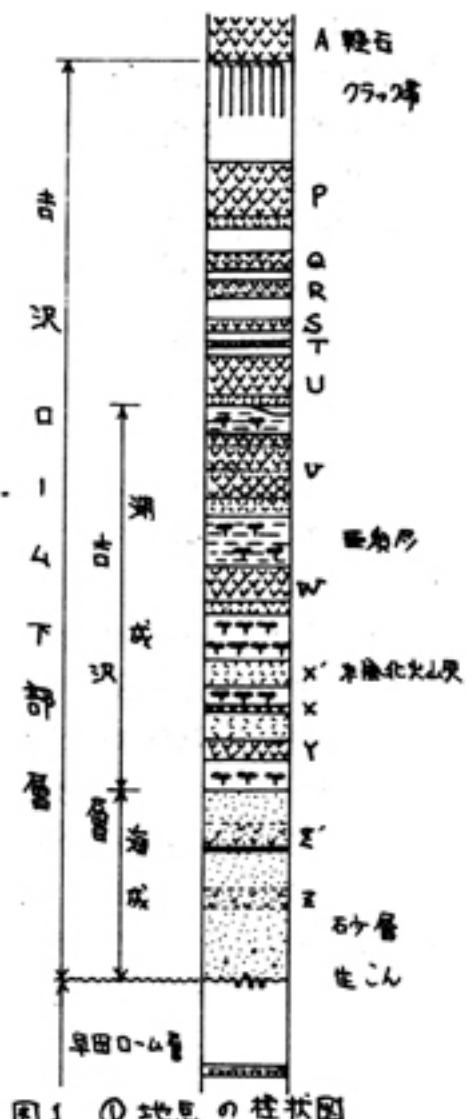


図1 ① 地点の柱状図

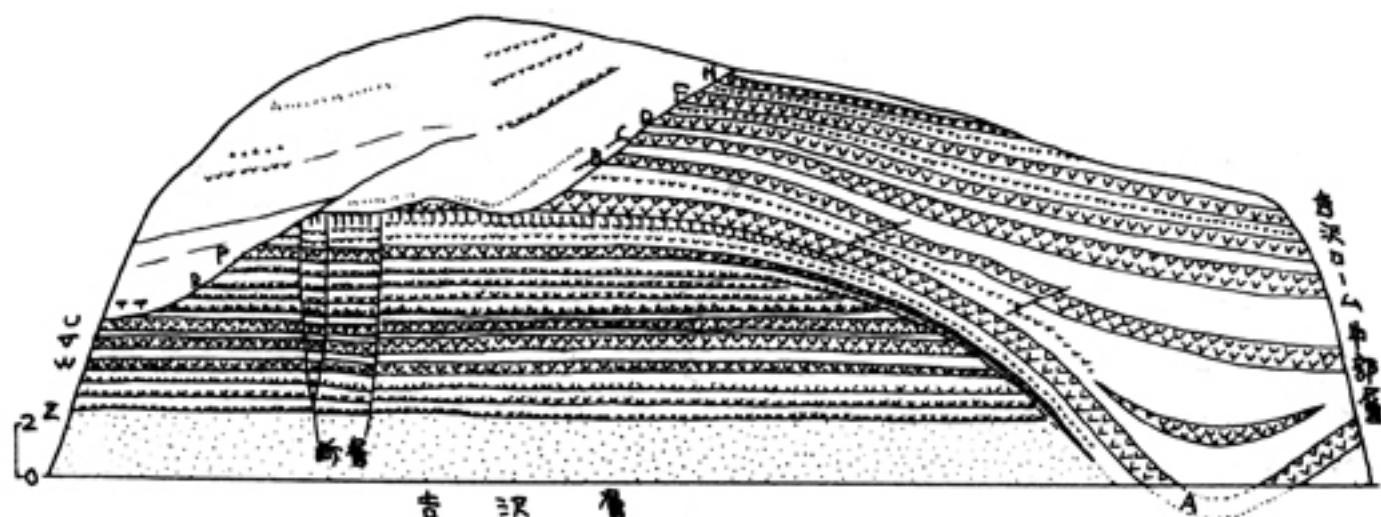


図2 ④ 地点のスケッチ